

第7回 市民と議会のつどい（文教・福祉常任委員会の部） 会議録

日時 令和4年9月3日（土）午後1時30分開会

主催 宇治市議会

オンライン（ZOOM）開催

1. 開会

■服部 正 広報委員会委員長（以下「司会」）

皆さん、こんにちは。

それではお時間となりましたので、ただいまより第7回市民と議会のつどいを始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、第7回市民と議会のつどいに御参加いただきまして誠にありがとうございます。私は、宇治市議会で広報委員長をさせていただいております服部でございます。

まず初めに、今回の市民と議会のつどいに関しまして、準備運営を担っております広報委員会の私から簡単な説明を申し上げます。

市民と議会のつどいは平成30年に第6回を行って以降、コロナ禍で開催を見送ってきたという経緯がございました。しかし、これ以上市民の皆様の貴重な御意見を伺う機会を先送りにしてはならないと、コロナ禍でも確実にできる方法を議員全員で相談し模索をした中、今回、新しい形ではありますが、試行的にオンラインでの開催を実施することとなりました。

本日は、各常任委員会がテーマに関する関係団体や個人の皆様と意見交換をいたします。初めての試みですのでオンラインの参加者は人数を限らせていただきましたが、広く市民の皆様のお声をお聞きするという趣旨で、事前に今回のテーマに関しての意見募集を行いました。またこちらの御意見につきましては、後日ホームページなどで御紹介をしたいと考えております。

また、本日はこのオンラインでの意見交換の模様を市民の皆様にご覧いただけるよう、パブリックビューイングの会場を御用意しております。パブリックビューイングの会場におられる方は、オンラインの意見交換には参加していただけません。アンケート用紙を

用意しておりますので、後ほどそちらに御意見、御感想を記載していただければありがたく存じます。

進行につきましては次第のほうを御参照いただきたいと思います。幾つか注意事項のお願いがございます。

1つ目は、市民参加の発言のお時間をお一人4分程度とさせていただき、お時間が近づきましたら委員長よりお知らせいたしますので、よろしく願いをいたします。

2つ目には、Z o o mのお取扱いでございますが、発言される方以外はミュートにさせていただき、発言される方のみミュートを解除していただき、発言をしていただきたいと思います。また、画面には常にお顔が映るよう、ビデオのボタンをオンにさせていただくようお願いをいたします。また、委員長より指名された方以外の発言のときには挙手をしていただきたいと思います。その際には画面に見えるよう、お顔の近くで挙手をしていただくようお願いをいたします。

本日は運営上、何かと不行き届きの点もあるかと思いますが、何とぞスムーズな進行に御協力いただきますようお願いを申し上げます。

また、記録のため、写真及びビデオ撮影を行いますので、御了承いただきますようお願いをいたします。

それでは、開会に当たりまして、宇治市議会議長堀明人より御挨拶を申し上げます。

2. 議長挨拶

■堀 明人 議長

皆さん、こんにちは。御紹介をいただきました宇治市議会議長の堀でございます。

本日は、皆様には大変お忙しい中を、この第7回市民と議会のつどいに御参加をいただき、誠にありがとうございます。開催に際しまして、議会を代表して一言御挨拶を申し上げたいと存じます。

皆様におかれましては、平素より宇治市議会の活動に格段の御高配、また御理解をいただき、誠にありがとうございます。

さて、宇治市議会では、市民の意向を的確に反映し、市民に開かれる、信頼される宇治市議会を築くため、そして、市民福祉の向上、あるいは市政の発展に貢献するため、宇治市議会基本条例を制定いたしました。その条例の趣旨にのっとり、宇治市議会の活動を知っていただき、議員が市民の皆様と意見交換をさせていただく場として、この市民と議

会のつどいを開催しております。

今回は、コロナ禍でも確実に開催ができるよう、初めてオンラインでの開催といたしました。これまで以上に内容の濃い御意見をお伺いできるものと期待をしているところでございます。

今回の事業においていただきました市民の皆様の御意見を基に、今後も宇治市の明るい未来を築くべく議論を重ね、市民に開かれ、そして皆様に信頼をしていただける宇治市議会を目指してまいりたいと考えております。

また、今回初めての手法となりますつどいの実施に当たりましては、服部広報委員長をはじめ広報委員会の皆様、あるいは議会事務局の皆様には大変な御尽力をいただきましたこと、感謝を申し上げたいと存じます。

本日は、短い時間ではございますが、実り多いつどいとなりますことを祈念いたしまして、開会の御挨拶とさせていただきます。

この後、私自身もこの文教・福祉常任委員会の委員として参加させていただきますので、引き続きお願いいたします。ありがとうございました。

■司会

議長、ありがとうございます。

それでは、ここからの進行におきましては、文教・福祉常任委員会の中村委員長にお願いをしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

3. 意見交換

■進行 中村 麻伊子 文教・福祉常任委員会委員長（以下「進行」）

皆さん、こんにちは。文教・福祉常任委員会の委員長でございます中村麻伊子でございます。

意見交換を始めます前に、本日参加される皆様を御紹介したいと思います。お名前をお呼びいたしますので、お呼びしましたら挙手をお願いしたいと存じます。

それでは、市民の皆様から御紹介をさせていただきます。（紹介）

続きまして、委員を御紹介させていただきます。

まず、宮本繁夫委員でございます。続きまして、堀明人委員でございます。鳥居進委員でございます。徳永未来委員でございます。角谷陽平委員でございます。副委員長の西川

友康委員でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、私どもの委員会のテーマとして、「ポストコロナを見据えた今後の宇治市の福祉・教育のあり方」について、意見交換をしていきたいと思っております。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、市民の生活は一変いたしました。特に福祉・教育の現場では多大な影響を受け、待ったなしの対策、支援策が求められていると思っております。子供の健やかな成長を支えるための支援、急速に変化する社会に対応するため、自らの力で新しい時代を切り開く子供を育む学校教育、また、住民一人一人が生涯にわたって健康で過ごせる支援など、コロナを乗り越えて、誰もが安心して暮らせるまちづくりに必要なものは何かを皆様と一緒に考えていけたらと考えております。

それでは、今回御参加しております皆様から、テーマに基づいて御意見をいただきたいと思っております。

なお、スケジュールの都合から、皆様からの御意見の交換の時間をお一人4分までとさせていただきます。大変限られた時間ではございますが、進行上の都合もございませぬので、何とぞ御理解いただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、まず、発言者①様よりお願いしたいと存じます。

■発言者①（社会福祉法人 宇治市社会福祉協議会）

いつもお世話になりましてありがとうございます。

私のほうからは社会福祉協議会の今の取組とこれからについて、少し考えていることを御報告させていただきたいと思っております。

まず、コロナ禍で見えたこととお話しさせていただきたいと思っております。

コロナ禍では、今、私のバックに多分見えているのは宇治市総合福祉会館ですけれども、ここの福祉会館のほうも緊急事態宣言等で閉館をするというような時期もありまして、今は皆さん来てくださっていますが、本当に一時期、毎日が暗く寂しいような日々が続いておりました。

集うという地域活動に制限がかかっていたあの状況下がありますし、今もなおその部分が、判断が難しいという状況が続いています。これについては、病気に対する考え方も皆さんで様々ですし、集う場所にもいつとき制限があったことで、やっていいのか駄目なのか、今もなお判断が難しいというところが続いています。

この判断をそれぞれで行うということになっていきますので、そこで判断を迫られるリー

ダーの皆さんが日々本当に苦勞されていて、やったほうがいいということも分かるけれども、やはり病気に対してのこともあるしねということで、かなり慎重に、かつ、皆さん、いろんな人の意見を聞きながら進めておられるということと、やはり判断の難しさを日々感じておられることを聞き取っています。

ただ、止まってばかりもいられないというところは、今日の催しもそうですけれども、集えないけれども工夫をするということはもう当初からされていて、本当につながりを絶やさないための工夫として、会わないけれどもつながっていることを実感できるようなことをしようということで、本当に手紙をポストイングするとか、手作りのマスクを作って届けるとか、そういう交流の機会というのをされていました。

なかなかオンラインというところでいうと難しいところがあったのかなと思うんですが、皆さんができることを工夫されていて、温かいお手紙をもらって、ああ、独りじゃないんだなということが分かったとか、そういう心の交流をずっとされてきているところもあります。中には、やっぱり会うということもすごく大事なので、グループの中でLINEとかで共有されて、お買物に行く時間を皆さんで決めて、ちょっと遠くからでもいいからお顔を見ようねということで、そういう、集まらないんだけど集まりを考えるというようなことをされていたのがエピソードとして残っています。

これはやはり会って、じかで触れていることでずっとつながりというものを実感されてきたと思うんですけれども、なかなかそういうことが難しかったんだなというところ、コロナで難しくなったんだなということを感じています。

あと、私たちのほうでは特例の貸付けの相談も受けていまして、こちらのほうからはやはり8050ですとか、40代後半、50代の非正規の雇用の方からの御相談でありますとか、大学生もアルバイトができなくて学費が払えないというような御相談もありまして、本当にもともときりぎり生活されてた方たちが一気に苦しくなったということの相談も受けてましたし、外国籍の方からの御相談が非常に多くて、こんなに宇治には外国籍の方がおられるのかということを実感したところもありました。

これからについてというところですが、地域活動をするモチベーションをやはりどうやって上げていくかということがすごく大事だなと思っています。福祉活動をしている人たちはやはりつながって、顔を合わせてというところにメインを置いてきたので、今回それが難しくなったということで、これから先どうしていくのかというところをどう支えていくのかというのが私たちの今の課題かなということと、それに加えて、やはり皆さ

ん、1年ごとに年を重ねていきますので、後継者の問題とか高齢化の問題についてもやはり考えていかないといけないということを日々感じています。

あと複雑化するニーズ、コロナで見えたぎりぎりの暮らしをされている人たちをどう支えるのかという仕組みづくりについても検討が必要かなと今考えているところです。

以上です。

■進行

ありがとうございました。

続きまして、発言者②様、よろしくお願いいたします。

■発言者②（宇治市民間保育園連盟）

よろしくお願いいたします。

私のほうからは、4点お話をしたいと思います。

まず1つは、子供の豊かな育ちです。これは教育にも携わるところですけれども、乳幼児期というのが一生分の乳幼児期というような捉え方で、ただ遊んでいるとかそういうことではなくて、人間としてどのように生きるのかというような、その根本を育むということを連盟19か園で取り組んでいるところです。

例えばコロナ禍においては、マスクの問題性が非常に大きく取り上げられました。チンパンジーの実験では、御存じのように、脳に与える影響があるということで、人間にとっても少なからずの影響があるんだらうと、情緒的なコミュニケーション力等の影響があるというふうに言われています。

そういった感染症対策と、それから豊かな育ちを両立することの難しさ、そのことはひしひしと感じておりました。子供同士、遊びの中でいろんなことを育てていきますけれども、1人の主体性、独創性と、それから一緒につくるという中での人権的な学びと、それからコミュニケーション力と、自分では思いつかないようなこととかを育んでいくということがこのコロナ対策によってかなり分断されていったということ。

ただ19か園の園長は毎月情報交換をしてまして、そこに宇治市の保育支援課さんとかも参画いただいて、様々な対応を話し合えたことはよかったなというふうに思っているところです。

ただもう一つ、両立しないことがあります。それは何かというと、例えば高齢者の介護

施設等では、感染症を持ってくるといのは、今、職員さんになるわけです。中で感染が広がっていくことはない。そういったときに、子供たちは感染したからといって重症化はしないけれども、そこからおうちのほうに広がっていった職員さんとかが持ち込んでしまったりとか、子供にとってよいことをしたときに、必ずしも全ての立場の人によりよいことにはならないというようなところの難しさも併せてあるんだというふうに思っております。

次に、親の安心です。そうでなくても現代が子育てがしにくい時代であるということももう言われて久しいですけれども、なおその孤立化、または行動制限等によってストレスを抱える親御さんが少なくないのではないかなというふうに感じています。肌感として、そういうことの相談が増えているなというふうに思っております。アウトリーチ、こちらから関わっていく、そういうふうなところ、待っているだけではなくて、まちの中に繰り出して、アウトリーチしていくための取組の充実が望まれるなというふうに思っていることと、それから、そういった拠点としての事業所の機能を多機能化していくことの大切さも思っております。例えば日曜日とかの活用でありますとか、そういったところを充実させていく必要があるなというふうに思っています。

その延長線上に、地域をつくるということがあると思います。地域がより、みんなでウェルビーイングしていくという方向に向かっていくための大切な根本は、分かり得なさを共有するということだと思っております。理想を掲げることも大切ですが、分かり得ない、分かっていない、お互い分かっていないものなんだという前提の下にコミュニケーションを機能させていくということが重要だと思っております。

それを支えるための4点目は、制度になります。例えば子供のほうに関わっていきいたいと思いつつも、10日間休まなくてはならないという職員で人材難に一層拍車がかかってくる。そのあたりを何とかサポートしてもらえようということがあればよいなというふうに考えております。以上です。

■進行

ありがとうございました。

続きまして、発言者③様、よろしくお願ひいたします。

■発言者③（宇治市障害者福祉施設連絡協議会）

施設連絡協議会は、市内に所在する21か所の障害者福祉施設が加盟し、日々障害者福

社の推進を目的として活動しております。私の宇治作業所のびのびも宇治市の5か所にありまして、医療的ケアを必要とする重度の方を中心とした生活介護の施設です。

私からは、まず、コロナ禍における施設連絡協加盟施設の現状をお伝えしたいと思います。

7月から続くコロナウイルスの感染症の爆発的な増加は、多くの施設で多大な影響が出ております。現在、宇治市内のほぼ全ての障害者施設で感染症が出ており、特に入所施設は利用者の3分の2が感染者になるという事態にも陥っております。当施設でもクラスターを2回経験し、重度の利用者が命の危険にさらされ、緊急入院するというケースもありました。

施設は利用者や職員、また家族が陽性者ということで判明した場合、場合によっては数日、長ければ1週間という閉鎖を余儀なくされてしまいます。そういった中でも、また職員が陽性になった場合は、ただでさえ人員不足の現状において、日々の支援さえままならないという状況にもなってしまいます。

一方、利用者のほうも、日々の日課の中では徹底した感染対策、私たちが大切にしてきた仲間同士の会話、職員との楽しいコミュニケーション、そういった機会が減ってきているという現状もありながら、いろんなこと、イベントなどの中止をしたりして利用者の活動を制限したりもしております。

この2年数か月の中で、ウィズコロナということでいろんな経験は蓄積されましたが、なかなか落ち着いてポストコロナやウィズコロナ、そういったことを考える余裕はないのが現状であります。

それに加えて、不安定な経営運営の中で突如出てきたのが物価高騰であります。施設連絡協議会においても、緊急的に加盟施設にアンケートを取りまして現状の把握に努めました。アンケートの中には、自主製品の減少、原材料の高騰であったり、また、日々作業とかなのために使いますガソリン代の高騰、また、施設の日々の光熱費、そういうものが急騰し、苦しいところに、ますます追い打ちをかけて苦しい現状があります。

最終的には商品の値下げも考えますが、なかなかできないのが現状で、利用者の給料を下げなければいけないかなという悲痛な声を訴える加盟施設もありました。

そういった中で、宇治市に対して要望書を上げさせていただきまして、コロナ禍の現状、苦しい施設の運営の状況ということを知ってもらうということと、御支援をお願いしました。宇治市では、状況把握の中で、2年間の自主製品の買上げであったり、今年度はウィ

ズコロナを見据えた新たな作業の開拓に補助を御支援いただき、大変心強く思っております。

ですが、障害者福祉のこれまでもあった弱点ではあるんですけども、一層コロナ禍によって明確になったことがあります。

1つは、工賃の日割り計算の問題です。陽性者が判明したり施設を閉所すると、それが報酬の減額に直結するという、そういった事態もあります。もう一つは、建物の問題です。これまで十分にあったところが、密を避けるためにということで、部屋などの割り振りをやはりもう少し広めにとるといのはなかなか厳しい状況であります。3つ目は人の問題です。どの施設も職員数にゆとりがあって運営しているわけではないです。こういった状況の中ではやむを得ないことかもしれませんが、5名から6名の職員が陽性者や濃厚接触者というふうに判明するだけで、たちまち日々の支援がままならないという状況にもあります。そんな危機的状況の中での、加えて物価高騰というダブルパンチになっております。

また、保護者も大変です。我が子が……

■進行

発言者③さん、大変恐縮なんですけれども、ちょっと時間がオーバーしてますので、まとめただけると助かります。すみません。

■発言者③（宇治市障害者福祉施設連絡協議会）

すみません。保護者にとっては、我が子がかかったり自分がかかったときの不安感というのはあると思います。障害のある方は、多くが基礎疾患があって重篤化するということがありますので、そういったこと、我々も命を支える観点ということから、今の現状のことを続けていかなければならないなと思っております。

すみません、遅くなりました。以上です。

■進行

ありがとうございました。限られた時間で大変申し訳ございません。

続きまして、発言者④様、よろしくお願いいたします。

■発言者④（一般財団法人 宇治市福祉サービス公社）

よろしく申し上げます。

包括支援センターは、65歳以上の高齢者の相談窓口です。宇治市内に8か所あって、小学校区単位で担当区域が決められております。専門職が配置されているんですけども、大きな役割としては、高齢者の総合相談窓口、権利擁護事業、包括的・継続的ケアマネジメント業務、あと介護予防のケアマネジメント、要支援の方のケアプランを立てております。大体1か月280件ほど立てております。

その中で現状と課題を申し上げますと、ケアマネジャーが不足していること、私たち予防プランの件数が増えていること、あと複合的な相談が増えていること。この3つが今の高齢者の包括支援センターから見た課題なんですけれども、今日はコロナということで、今一番問題となってきたのがケアマネ不足と複合的な相談が増えているというところですね。

令和2年からコロナで、地域の集まりとか入院も面会ができない、入所しても面会ができないという状況で、高齢者の方もやっぱり孤立してしまうとかということが現実的に問題となってまして、重度化してからの、傾向としては相談が増えているという感じです。

あと、入院、入所したら会えないということで、在宅で支えたいという選択をされる方も多いですし、実際入院ができないので、骨が折れててもがんの末期でも在宅で見ざるを得ないという状況が出てくるので、そうなるケアマネジャーさんが必要となってくるんですけども、ケアマネジャーさんの受け手がちょっと今、受けていただけるのが大変な状況で、今でもケアマネジャーさんを探すのに半日、1日かかることも出てきております。

そこで複雑化する問題も非常に多くなっておりまして、8050も問題となっているんですけども、我々は高齢者の切り口で相談に伺っても、訪問すると精神障害の息子さんがおられたりとか不登校のお子さんがおられたりとか、雪が降る季節でも半ズボンでしか過ごしておられないような貧困であるとか、そういう様々な問題を抱えておられる世帯に遭遇するんですけども、我々高齢者の切り口だけでは解決できない問題もあって、障害福祉の部門や児童福祉の部門に連携を求めたり相談したりするんですけども、役所の中はなかなか縦割りで協働が難しいことが多い現状で、ちょっと歯がゆい思いをすることもあります。地域共生社会と言われるこの時代ですので、横の連携を強くしていくことが、今後の宇治の福祉がよりよいものになるのではないかと感じております。

そこで、包括支援センターとして何ができるのかと、小さいことかもしれないですけど、私たちが何ができるのかと考えて、ちょっとでも包括支援センターを知ってもらおうとい

うので、インスタグラムというのを分からない中でも始めて、今、7月から走り出しています。それをきっかけに、地域のサロンやお店や地域のお医者さん、薬局などを今、回ってまして、広報活動も含めてなんですけれども、地域の困り事を聞き取れるように、職員が今、努力をしている最中です。何か少しでも困ったときに相談できるというのを知っていただいて、活用していただいて、我々もいろんなところとつながって、一緒に支援をしていけるといいなというふうに考えております。以上です。

■進行

ありがとうございました。

続きまして、発言者⑤さん、どうぞよろしく願いいたします。

■発言者⑤（宇治市私立幼稚園協議会）

どうぞよろしく願いいたします。

初めに、今回ちょっと御無理をお願いして、幼稚園協議会として2名の意見を言わせていただくということで、私、前段、幼稚園の取組等をお話しさせていただいた後、宇治の関係の会議にも出席いただいている発言者⑥先生にももう少し、意見をぜひとも言わせていただきたいということで、貴重な時間、できるだけ半分にしなごらお話しさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

まず、私立幼稚園に対して、本当に宇治市、また関係の皆様幼児教育の重要性ということで理解を賜って支援をいただいていることに、まず感謝申し上げます。

令和元年の10月に幼児教育無償化が実現したことによって、私立幼稚園にとっても保護者負担が大きく軽減されました。このことは本当に生涯にわたる公教育としての幼児教育の重要性が社会にも認められたということで、我々も喜びでありますし、同時に大きな責任を感じているということです。

宇治に私立幼稚園、9か園ありますけれども、松村宇治市長の掲げておられる「子育てにやさしいまち うじ」を推進する施設として、それぞれ研鑽の下、独自性、そして特徴を生かして、3歳以上のいわゆる新制度における1号認定の子供たち、家庭で子育てをしておられる家庭の幼児教育を我々は担ってきたというふうに思っています。

また、コロナ禍によって生活様式の変化が幼児期の集団生活に及ぼしていることというのが今もお話に出てましたけれども、本当に心配されます。マスクでの言語の遅れである

とか、2人きりで家にいる、そういう社会性の遅れであるとか、外に出られないというような経験不足、こういったことが本当にこれから、それを充填していくということがますます大切になってきているということです。

なので、幼稚園としても、3歳で入ってきた子供たちが、本当に今この2年間を見ながら、少し、いや、かなり問題があるなというふうなことは実感しているところであります。ですので、満3歳児クラスであるとか、親子登園で幼稚園に来るとかというふうな幼稚園入園までの時期を家庭で過ごす、保護者の子育て支援もこれからますます大切にしていきたいというふうに思っていますし、今もそういうのに取り組んできているところであります。

2歳児に対する私立幼稚園の積極的なアプローチというのは、やっぱり今、保護者のニーズであるというふうに思いますし、これからも継続的にできるような、そういう取組を支援していただけたらなというふうには思っています。こういう教育的な機能とか地域のコミュニティーづくりというのは子育ての支援に必要ではないかというふうに思っているわけです。幼稚園も地域の子育て支援センターとして、これからやっぱり役割を担ってきたいというふうに思います。1号認定、いわゆる家庭で育てておられるだけじゃなくて、2号、いわゆる働いておられる場合でもできるだけ延長保育等、利用していただける部分も、幼稚園もこれからも取り組んでいくというふうに思っております。

前半、これぐらいで、発言者⑥先生にバトンタッチします。完全に分担できてるわけではないんですけども、少し発言者⑥先生にも幼稚園の取組等をお話ししていただければというふうに思いますので、どうぞよろしくお願いします。

■発言者⑥（宇治市私立幼稚園協議会）

失礼します。すぐに引き継ぎましたけれどもよろしいでしょうか。どうぞよろしく願います。

今、発言者⑤先生からお話がありましたので、私立幼稚園の取組につきましては、おおむねお伝えできたかなと思っているところです。

コロナ禍でのという今回のテーマで考えますと、やはり幼稚園というところは、本当に一番最初に時代の波を受けます。今年3歳、また満3歳児で入園してきた子供たちは、このコロナ禍の人との関わりがない行動制限をされた中で、一番活発に活動し、成長する乳児期を過ごしてきたわけです。それで実際にお預かりしてみますと、やはり様々、これは

対応が難しいな、個別で課題があるなという子供さんや保護者の方にたくさん、直接お目にかかることが増えました。

私たちは教育という柱で仕事をしておりますので、小学校、中学校につながっていく、その土台をこれからどんなふうにして築いていくのかということを考えましたときに、ただ教育の質ということで今まで言われてきたようなこととは少し異なった教育の内容の在り方を具体的に考えていかないといけないなというふうに感じています。それは、これまで特別支援教育であるとか、そういう言葉で言われてきた個別の支援ということだけでなく、幼稚園全体としての教育内容とか、あるいは教員の配置の問題、それから専門的な知識を持っている方の活用、そういった点が非常に重要になってくるかなというふうに思っています。

一方で、幼稚園や保育園に在籍していない無園児という子供たちの存在についても、これはまだはっきりと宇治市の中では把握ができていないのかも分かりませんが、コロナ禍のこのコロナの影響で就業できなくなったり、あるいは家庭で見ると仕方がない子供が家庭の中に置き去りにされてしまっている、そういう無園児というような子供たちが実はいるのではないかなというように思っています。

また、コロナ禍で……

■進行

発言者⑥先生、すみません。ちょっと限りがありますので、申し訳ありません。貴重な御意見でしたのに、すみません。ありがとうございます。

■発言者⑥（宇治市私立幼稚園協議会）

いえ、ありがとうございました。

■進行

すみません。続きまして、発言者⑦様、よろしく願いいたします。

■発言者⑦（宇治市連合育友会）

皆様、お世話になります。

宇治市連合育友会は宇治市内の31の小中学校の保護者と先生で成り立っている会です。

子供たちの学校生活であったりとか、それ以外での生活を支えていくことを目的とした会ではあります。ただこのコロナ禍でというところで、ちょっと保護者の方々から聞いている意見とかを、ちょっとこの場でお伝えさせていただけたらなと思っております。

まず1つは、やっぱりこのコロナで進んだことと言えば、いわゆる子供たちのICT化です。タブレットを当たり前のように学校で使う等々が進んでいく中で、正直我々親のほうもそういったICT機器に弱いとか疎かだったりして、改めて、子供だけではなくて親同士も学んでいかなければいけないなというような思いを考えているところです。

それに基づきまして、今年は京都府のPTA研究大会という親同士の学び合いの場を、開催地は今年、宇治で行いますので、ちょっとその大会が10月30日に行うんですけれども、それに向けて連合育友会がちょっと一丸となって活動しているというのが今の現状の1点です。

2つ目としましては、やはり今年度から宇治市内の小中学校でコミュニティスクール構想というのが、もう先行的に始まっている学校もあるんですけれども、そういう取組が始まっている中で、やっぱり保護者、教師、そして地域というこの3者が協働して子供たちの学びの環境をつくっていく必要があるなというのを改めて今考えている次第です。

そこにつきましては、本当に各学校ごとにいろいろな地域の団体さんであったりとかそういうところともお声がけさせていただいて様々な取組をしておりますので、またぜひ皆様にもお力添えいただけたらと思っております。

3点目が、先ほど皆様からも御発言があったように、やっぱり子供たちのコミュニケーション不足というのがよく言われてます。今の小学校3年生の子供たちが入学を迎えたときには、入学式の翌日から2か月間休校という今までにないような全国的な社会現象だったので本当になかなか、あと通常マスクをしていることから、ちょっとコミュニケーションが苦手だったりとか、ちょっとコミュニケーションにつまずくと学校に行けなくなったりというようなこともありまして、これは保護者からというよりは教育機関からですけれども、ちょっと不登校が全国的に増えているというようなこともやっぱりこのコロナ禍では起こっている一つの現象かなというふうに思っております。

皆様もそうであるように、なかなかやっぱり会ってお話をする機会というのは、PTAでもやっぱり難しい時期もありましたけれども、やっぱり我々も親の学びを止めないというところを一つの目標にして、今はちょっと毎月、何とか31校集まって理事の皆様と意見交換をしているというような現状でございます。

また、やっぱりコロナ禍なので、なかなか会うのは難しいですけども、やっぱりつながりというのがPTAの一つの目的でもありますので、ちょっとそこを大切にしながら活動していきたいなと思っております。以上でございます。

■進行

ありがとうございました。

市民の方、最後になります。発言者⑧様、よろしくお願いいたします。

■発言者⑧（一般財団法人 宇治市スポーツ協会）

よろしくお願いいたします。

まず、コロナ禍がもたらした変化についてということで、2019年末から蔓延したこの新型コロナによって、スポーツも大きな岐路に立たされています。元来多くのスポーツは人が集まって行うものであるため、人が集まってスポーツする場や人が集まってスポーツをする、もしくは観覧する機会を提供してきました。しかし、このコロナ禍によって、その対策として求められた行動様式、生活様式で、特定の場所に人が集まること、人を集めることが抑制されています。その結果、目標の一つ、多くの人に場と機会を提供することが今までの手法ではかなわなくなっています。

変わっていないものとしては、楽しさ、喜び、自発性に基つき行われる本質的なスポーツそのものが有する価値、また、スポーツを通じた地域活性化、健康増進による健康長寿社会の実現、経済発展、国際理解の促進など、スポーツが社会活性化等に寄与する価値、これについては変わっていないというふうに思っています。

次に、地域スポーツの危機と学校運動部活動の連携をめぐる可能性についてであります。今回のコロナ禍で、長期間にわたって公共スポーツ施設の利用制限もあつたり、生涯スポーツ推進の中心であった各種サークルやスポーツ少年団、地域体振等が、活動が見えなくなったということもあつて人が集まらず、危機的状況に追い込まれてる団体も少なくはありません。

スポーツ実施率向上を目的に、スポーツ・イン・ライフを実現する案として施策が新たに展開されていますが、運動部活動の地域移行論というのは、学校教育活動の一環としては、役割の確認とともに、我が国の体育スポーツ大会の在り方や競技力向上システムの見直しも迫る重要な課題であるというふうに捉えています。

しかし、この当事者である子供たちや現場の教師の意見というのが反映されているとはなかなか思えないという状況にあると思います。

言いたいことはたくさんあるんですが、最後に、コロナ禍から挙げられてきた課題の多くというのは、何も解決してないというふうに思っています。特に新型コロナ感染拡大を契機に露呈した人・もの・金の問題はより深刻になっています。人口減少、高齢化によるスポーツ人口の減少、また、限られた活動場所と老朽化した施設と設備、特に宇治市のスポーツ界を長らく支えてこられた世代が引退しつつある現状というのは、それを支えるマネジメント機能や拠点が、個人の善意、いわゆる御自宅でやってきたという現状がありますので、その行き場を失って、切実な問題となっています。

例えばの話ですけど、今度小中一貫校ができて空き教室ができるのであれば、その1棟をスポーツとか芸術文化のクラブハウスみたいなことで、活動の拠点として活用することも前向きに検討していただければ非常に助かるというふうに思いますので、ぜひこれは要望しておきたいと思います。

以上です。ありがとうございました。

■進行

皆様、大変貴重な御意見をありがとうございました。

ここで、私たち委員も様々な意見があるとは思っていますので、各委員から一言ずつ、2分程度で御意見をお聞きしたいと思います。

まずは、角谷委員からお願いしたいと思います。

■角谷 陽平 文教・福祉常任委員会委員

本日はいろいろと、本当に勉強になります御意見をいただきましてありがとうございました。

様々お聞きする中で、やはりコロナ禍で今まで覆い隠されてたとかはっきりしなかった課題が本当に見えてきたと。特に言っていたのは、やっぱり複合化したり複雑化しているような福祉の課題だったりだとか、どうしても役所の中の行政の分野をまたいだような問題というのが、本当に高齢者だけじゃなくて子供たちのほうにもやっぱり出てきているのかなということで、今、御意見をお聞きしながら感じておりました。

やはりこれからの様々な分野を超えて重層的な支援体制であったりとか包括的な支援体

制というのは一層やっぱり整備していかないといけないなということで、皆様の御意見を聞かせていただきまして、本当にまた新たにこういったものを行政のほうにも提言していきたいというふうに思いました。本日はありがとうございます。

■進行

続きまして、徳永委員、お願いいたします。

■徳永 未来 文教・福祉常任委員会委員

お話聞かせていただきましてありがとうございます。

私も子供を持つ親として、この3年間、本当に子供を育てながら思ったことはたくさんありますし、入学式であったり卒業式であったりというものが縮小されて、あるのかないのかということで本当に不安な思いを子供と一緒にしてたんですけれども、先生たちの御協力とかもありまして、今年度は学校のほうで、中学校に通ってるんですけれども、3学年合わせての運動会であったりとか、合唱コンクールが行われるということで、本当に少しずつではありますけれども、前進していったんだなというふうには思います。

また、今日お聞きした中でも、やはりなかなか、まだまだ改善していかなきやいけないところというのがたくさんあるんだなというふうに思いました。また議会のほうでも取り上げていきたいと思っておりますので、機会がありましたらお話のほうを聞かせていただきたいなというふうに思います。ありがとうございました。

■進行

次に鳥居委員、よろしく申し上げます。

■鳥居 進 文教・福祉常任委員会委員

皆様、本日は御参加いただきまして、誠にありがとうございました。

それぞれのいろんな立場、また職場での貴重な体験や経験を、今回、コロナ禍ということで話していただいていたと思います。非常に私ども議員にとっても参考になったことだと思います。本当にありがとうございました。

私自身も実はスポーツに関わる一人でもあります。その現場の中でも、いろんな形で体験させていただいたこともたくさんございます。また、それぞれの立場、それぞれの場所

で新たな発見もできたことだと、このように思っています。

宇治市にとってもそれぞれの課題一つ一つが見えてきたのではないかなと。また、それに対して、宇治市がやっていかなければならないこともまた見えてきたのではないかなと、このようにも感じております。

宇治市のウィズコロナ、アフターコロナに関しては、皆様、今後とも貴重な御意見を賜りますようによろしくお願いを申し上げます。本日は貴重なお時間を賜り、ありがとうございました。私からは以上でございます。

■ 進行

続きまして堀委員、よろしくお願いをいたします。

■ 堀 明人 文教・福祉常任委員会委員

ありがとうございます。本当に皆さんには貴重なお話を聞かせていただきました。

コロナが発生してから約丸2年が経過をして3年目ということでございまして、我々宇治市議会といたしましても、これまでは、いわゆる目の前の出血を止めるための緊急要望を市長に提出しながら、それを補正予算という形で予算化していくと、こういうことだったんです。

しかし、丸3年が経過をして、まさにこれからウィズコロナ、新しい生活様式が言われる中で、我々やっぱり議会といたしましては、本当にこうした今日みたいな形で、専門性の高い皆さんからの本当に貴重なお話をお聞かせいただく中で、机上の空論ではなくて本当に市民のニーズを把握させていただき、理にかなった形での予算要求であったり、それを施策化して予算化していく、制度化していくと、こういうことをこれからしっかりと取り組んでいかなければならないなと思っておりますし、また、宇治市だけで解決できない問題につきましては、京都府であったり、あるいは関係の省庁へもしっかりとおつなぎしていきたいというふうにも思っておりますので、ぜひ今後とも皆様方には、お気軽にお近くの自民党議員団に御連絡をいただければ幸いに存じます。今日はありがとうございました。

■ 進行

続きまして、宮本議員、よろしくお願いをいたします。

■宮本 繁夫 文教・福祉常任委員会委員

どうも今日はありがとうございました。貴重な意見をお聞きいたしまして、本当にありがとうございました。

以前は議会の文教・福祉常任委員会も福祉関係団体だとか、あるいは教育、様々な皆さんとの委員会としての意見交換なども実施をしてきたことがあったんですが、コロナ禍でこの数年、全くそういうこともできていませんでしたが、今日は短い時間で、皆さん方、言いたいことがなかなか十分に言えなかったか分かりませんが、お聞かせいただきまして本当にありがとうございました。

コロナの問題もいろいろ今、政府は動きが出てきていますけども、今年で3年目になりますが、8月度は宇治でも8,899人ということで、爆発的というふうな感染状況下でありまして、しかも9月に入りまして、日々減少ということにはなっていないというふうに思います。特に若年層で、小中学生が夏休みだったんですけども1,200人を超える感染者ということが市の発表でもありましたが、これ2学期が始まりますと、さらに感染の拡大なども心配されるわけでありまして。そうした中で、福祉や教育などに関わっておられる皆さんが、それぞれ現場で本当に苦労されてるということを改めてお聞きしました。

私ども議会としましても、しっかりとこういった市民の皆さんが現場で苦労されてることについて、具体的に解決する、そういう具体的な提案なんかも市議会でも、委員会としても、国なんかにも意見を求めて出していくような取組もぜひやっていきたいというふうに思っています。

特に高齢者の場合、在宅になったりしますとつながりがないので、いろんな苦労を介護者の皆さん、されていますし、学校でもそんな状況が今続いているようですけども、私たちもまたしっかりと頑張っていきたいと思っていますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。今日はどうもありがとうございました。

■進行

続いて、西川副委員長、よろしく申し上げます。

■西川 友康 文教・福祉常任委員会副委員長

どうも皆さん、本日はありがとうございました。

本当に1人の時間が非常に短い中、本当にもっと言いたいこととか思いがあったかと思

いますけれども、それぞれの言っていた短い時間だけでも、本当に勉強させられる状況でありました。

やはりコロナの対策だけではなく、コロナによって明るみに出た、また違う問題、感染症が落ち着いても、これは引き続き問題であるというような問題も非常に多く出てきているのが現状だと思います。

私も8月末、地域で夏祭りがあったんですけれども、先ほどもありましたように、運営されてる方は本当に開催してもいいのかという、最後までやっぱり悩まれておりましたし、それぞれ、伊勢田地域の各全体の福祉、学校PTA、福祉事業所、地域の町内会、自治会等、本当に御協力をいただいて、最終的に開催させていただいたんですけれども、やっぱりつながりというのが本当に大事なということも考えさせられました。本当に多くの方に来ていただいて、よかったかと思います。

こういったコロナ禍の中、やはりつながりの大切さというのをどうやってまた復活させていくのか、また、このコロナの中で出てきた様々な問題をこれから引き続きどうやってよい形に進めていくか。やはり先ほどもありましたように、問題が複合化してきておりますので、行政の縦割りとかそういうものではなく、しっかりとその問題に向き合えるような仕組みづくりを皆様と一緒にさせていただきたいと思いますので、引き続きどうぞよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

■進行

本日は本当に限りある時間の中で、発言者③様や発言者⑥先生におかれましては本当に忌憚のない御意見、最後までお聞きしたかったんですけれども、かなわなかったことを改めておわび申し上げたいと思います。

今回いただきました活発な意見交換、私どもといたしましても、大変有意義なものというふうに思っております。様々な意見を基に、今後とも委員会活動、そして我々個人の政治活動に生かしていきたいというふうに思います。

私の個人的な感想ですけれども、皆さんのお話を聞いて、コロナの行動制限などが孤立化、あるいは孤独化を招いて、今後様々なところに影を落とすのではないかと心配をいたしました。皆様の現場での肌感覚の御意見をいただき、私もこれからの活動の源泉にしていきたいというふうに思っております。

本当に本日はお忙しい中、皆様には大変御協力をいただきましたことに心から感謝を申

し上げまして、私ども文教・福祉常任委員会の意見交換を終わらせていただきたいというふうに思います。

閉会に当たりまして、広報委員会副委員長の西川康史より御挨拶を申し上げます。

4. 閉会挨拶

■西川 康史 広報委員会副委員長

広報委員会副委員長の西川康史でございます。

本日御参加いただきました市民の皆様、お疲れさまでございました。ありがとうございました。

本日の内容は、後日ホームページなどで御報告させていただきます。

また、パブリックビューイングで御参加いただきました皆様、どうもありがとうございました。よろしければアンケートへの御協力をお願いいたします。お帰りの際は、お気をつけてお帰りください。

以上をもちまして、第7回市民と議会のつどい、文教・福祉常任委員会の部を終了いたします。

Z o o m参加の皆様、どうぞ御退室ください。ありがとうございました。